

先生・お薦めの一冊

## 『深夜特急 1～6』 沢木耕太郎 著 (新潮社)

数学科 堂 蘭 幸 夫 先生

「インドのデリーからイギリスのロンドンまで、乗合いバスで行く。ある日そう思い立った26歳の(私)は、仕事をすべて投げ出して旅に出た。一年以上にわたるユーラシア放浪の記録。2万キロ先のロンドンまでの旅の軌跡。ひとつの旅の終わりは、新しい旅の始まりなのかもしれない。」(本著より抜粋)

歴史に残る名著である。『深夜特急』は、沢木耕太郎の1970年代の自身の旅の記録である。

僕はこの本を読み、心の奥が沸き立った。自由に旅をする。なんて素敵な響きだろう。ただし、収入のあてはなく、たった一人でバスに乗って。自由と束縛。慎重さと旅を続ける大胆さ。人と話すことと一人きりになること。様々な対比が単なる旅行記ではなく、人生の奥深さと結び付けられた話になる。

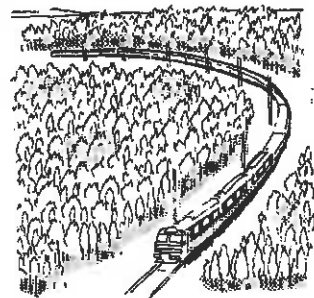
触発された僕は、夏休みの数週間を数年間、自由気ままに使い一人でさすらった。台湾まで船に乗った。アンコールワットにも行った。マレー半島をバスで乗り継いでみた。自分自身がリレーのバトンになる陸路でのマレー半島縦断であった。香港・マカオは眠らない街という印象を持った。オーストラリアの真ん中、ウルルの周り10Kmをリングをかじりながら歩いてみた。自分が旅に駆り立てられるほど影響を受けた本だった。

僕は気づいた。旅の楽しみ方は年齢とともに感じ方を変えるものだ。楽しいだけではなく、そこでそのとき何を感じるか。若くなければ出来ないこと、経験を重ねたから気づくこと。そうしてこの本をまた読み返す自分がいるのである。読書によって影響を受けることがあるが、僕はこの本から行動に影響を受けることとなった。そんな本なんて、そうたくさん出会えるものではないだろう。そういった意味では幸運にも良い本に出会えた。

人生という旅は自分が主演、出会う人全てが登場人物なのである。ストーリーも決められておらず、そこで間違えたバスに乗ったら降りて引き返せばよいわけであり、自分の信じた列車からは意地でも降りない勇気が必要なかもしれない。そのとき、きっと充実感を得られ意味ある旅になっているはずである。先日の文化祭での放送部による「青春とは？」で言うならば、「青春は旅だ。若者よ、旅に出よ。知らない世界を知ろう。」

旅本として有名なものに、『何でも見てやろう』(小田実 著)もある。人の生き方が読める本でもあり、読むその時々年齢の自分に染み込んでくる内容なのである。

本を読み進めると、残りのページが減ってくる。どんな終わり方で最期を迎えるのかがテーマになる。旅も終わりがある。どのように終わるのか、どの瞬間に終わったという感覚を得るのか。単に家に帰りただけではなく、ああこのへんが潮時だったんだと感じる瞬間である。しかし、終わりはまた次の始まりを意味しているわけで、終わり方を気にしていても何も始まらない。それよりも、旅行中の今を充実させなきゃ。



## 夏休みの利用について



### \*利用時間

7月21日(火)～7月31日(金)までの平日 全学年19時まで

8月 3日(月)～8月14日(金)までの平日 全学年8時30分～16時45分まで

夏休み中の土曜・日曜・祝日は平常通り 8時30分～16時30分までの利用となります。

\*7月19日(日)は休館します。

### \*書架室の利用

夏季課外のない日は書架室を閉館しますので、貸出・返却はできません。

本の貸出・返却は7月31日(金)までです。8月17日(月)からは、通常どおりの利用になります。



# 前田恭兵文庫のこと

平成27年4月21日、3年3組の前田恭兵さんが亡くなられました。前田さんの、何事にも前向きで、我慢強く挑んでいく姿に、周囲の多くの方が力を貰いました。どんなに時が流れても、高校3年生の前田さんが、いつも私たちの中で生き続けています。先日、前田さんの御家族から図書カードを頂きました。サッカー部だった前田さんを偲び、サッカー関係の本を含め、高校生に人気の本を揃えさせて頂きました。敬愛館の大切な蔵書となりました。

御寄贈頂いた本は、敬愛館の入り口のS字書架上の「鹿児島中央高校文庫」の横に、黄色い丸いシールで「前田文庫」と表示して配架してあります。多くの人に読んでほしい文庫です。前田さんの御家族の御厚志に感謝するとともに、前田恭兵さんの御冥福を心からお祈りいたします。

## 前田恭兵文庫一覧

- 『オシム終わりなき闘い』 木村元彦 著 (NHK出版)
- 『一流の逆境力 ACミラン・トレーナーが教える「考える」習慣』 遠藤 友則 著 (SBクリエイティブ)
- 『変えていく勇氣 日本代表であり続けられる理由』 遠藤 保仁 著 (文藝春秋)
- 『塩の街』 有川 浩 著 (アスキー・メディアワークス)
- 『仙台ぐらし』 伊坂 光太郎 著 (集英社)
- 『飛びはねる思考』 東田 直樹 著 (イースト・プレス)
- 『ヒポクラテスの誓い』 中山 七里 著 (祥伝社)
- 『一曲処方します。』 沢木 遼 著 (TOブックス)



## 6月クラス別貸出統計 貸出総数454冊

学年 組	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	24	12	30	16	27	27	82	37	5	22	16	4	31	11	21	22	5	6	10	6	18	3	8	11
合計	255冊								132冊								67冊							

## 図書委員のお薦め!

### 『三匹のおっさん』 有川 浩 著 (文藝春秋)



～町を守るため、三匹のおっさんが 今 立ち上がる～

定年退職した剣道の達人キヨ、居酒屋のもと亭主で柔道の達人シゲ、機会いじりの天才ノリたちが、ある事をきっかけに町の平和を守るヒーローになります。彼らはなんと60歳のおっさん達! 笑いあり、恋愛ありの作品です!



## 編集後記

あれほど待ち望んだ太陽が、うんざりする暑さを連れてきました。クラスマッチも終わり、夏季課外も始まります。気持ちを切り替えて頑張りましょう。待ち望んだ夏休みも、きっと瞬く間に過ぎていくに違いありませんが、大切に過ごしたいものです。そして、夏休みこそ読書を楽しみましょう! 将来を決める一冊に出会えるかもしれません。読書で良い汗を流してみたいかがでしょうか! 最後になりましたが、快く原稿をお書きくださいました堂菌先生、有難うございました。 (\*\_\*)